

社会的ロスの削減 (食品関連を例に)



提案分野：外出先での脱炭素

グループ：H

背景や現状と課題



作りすぎ・買いすぎの無駄によって、生産・運搬・処分において大量の燃料を使い、余分なCO2を排出し、地球温暖化に影響している。

この余分なCO2を削減するために食品ロスを例に考えてみた。

具体的な行動の内容

生産地 地元の優先利用



買うとき 外出時に自宅の食品在庫を確認する



処分するとき

自分で使い切れない分はおすそ分けする
生ごみを肥料にする（自然に還す）



アクションを広めていくための手法



市政だよりに見開き2ページで

食品を包み載せる「ラップとトレイ」を例に

生産・運搬・処分が発生するCO2

私たちがなすべきことのフロー図を載せる

仙台市政だより掲載例

	(例) 資源の少ない日本が 海外から原油を多量に購入して、輸送し、製油して			石油由来品を作って、消費者が利用し、廃棄されるまで		
						
現 状	日本産出の原油は約50万 ^{キロリットル} しかなく、多くを海外にたよるしかありません。	原油は中東から12,000 ^{キロリットル} 、45～50日かけて運ぶがタンカー1隻分は、日本の需要の16時間分しかない。	製油所では、原油を蒸留装置で加熱し重油、軽油等に分離し石油製品を作る。	製油所から、タンクローリーで、製品制作工場に運びトレイやラップにして、スーパーなどに納めます。	家庭で不要になったトレイやラック、食品トスは焼却場に運ばれ、焼却処分やリサイクルに回されます。	ゴミの排出量は緩やかに減少傾向にあるが、廃プラスチックと廃油がCO2の起源の80%を占める
	原油の輸入から精製まで			石油製品制作から処分まで		
問 題	日本産原油の100倍の約5600万 ^{キロリットル} を約8兆円をかけて輸入しています。 為替や輸出国事情に左右され、安定輸入の保障なし	多くのタンカーで、頻繁に運ぶのに多量の化石燃料からCO ₂ を排出する。 運送料、保険料はタンカー一隻で一航海、1億円もかかります。	加熱分離に多量の原油を使用し燃焼炉やボイラーからCO ₂ を排出します	これまたローリーが化石燃料で運搬し、制作工場でも化石燃料や電気エネルギーで制作します。また今後、ドライバー不足が予想され、安定輸送に懸念が...	東京ドーム118杯分の家庭ごみ処分に、国民の税金が使われています	産業廃棄物以外の年間のゴミ焼却費は約3兆円にもなるゴミ処理時のリサイクル率は20%で、埋立て地の不足が懸念される
一 人 一 人 一 人 が 可 能 な 事	① 衣服や家電、食品などの無駄な購入や廃棄を無くすことで、少しでも海外から原油を購入する量を少なくしましょう。 ② 小さな取り組みが、日常生活で繰り返されることでやがて、社会全体の意識として浸透するようにしましょう。	① 輸入量を少しでも減らすことで、日本の貴重な財貨流失を防ぐことができます。 ② マラッカ、シンガポール海峡が使えなくなると、値上がりが見込まれる ③ 事業所、家庭で原油由来の使用削減やリサイクルを進めましょう。	① 製油業界はエネルギー効率化、燃料の低炭素化を目指す。 ② 家庭でも、原油をエネルギー源とする電車の使用を見直すことで、家庭でも化石燃料の使用削減に協力できます。	タンクローリーは1台で30 ^{リットル} しか運べず、頻繁な運送が必要。大型タンクローリーの燃費は3km/L程度で、他の輸送手段に比べ、1台当たりのCO ₂ 排出量が圧倒的に大きい。 家庭でも、少しでも化石燃料由来の使用を減らすことで、CO ₂ 削減と大気汚染の減少につなげましょう	仙台市の50台、委託先の約600台の収集運搬車が市内をカバーしています。 全国では・・・？ 家庭ごみを減らすことで収集運搬車両の減少と市の支出削減が期待できます。	焼却と埋立処分から環境保全が前提の循環型(3R)へ 廃棄物を削減し、資源として利用し、どうしても利用できないものを適正処分する。 天然資源消費を抑制し環境負荷を低減する。
め ざ す	低炭素社会に 温室効果ガスの排出が増えています。 身の周りの、省エネを見直しましょう	循環社会に ゴミを減量し、リサイクル率アップを ゴミ焼却を減らし、CO ₂ の排出削減	自然との共生 自然と親しみ、健康と杜の都の緑保持 自然の緑で、CO ₂ 吸収、街のヒート緩和	環境の質アップ 河川、湖沼の良好な環境基準確保 車の利用を見直し、大気環境の維持		

アクションを広めていくための手法（2）



- **SNS**によるイベントの広報

- 新聞、テレビ、SNSなどのメディア
で広報する

それぞれの役割

市民（自分）の役割

- 購入商品情報にアプリの活用
- 昔の人の生活の知恵の活用
 - おすそ分けする食材集め
 - 肥料に使える生ごみ集め

その他（自治体・企業など）の役割

- 買い物計画アプリの開発と推進
- 産地の分かるアプリ開発
- 地産地消のイベントの企画
- 堆肥の生産と農家への還元
- 地域ごとに生産量を決める

地球・未来との関わり

食品ロスや社会的ロスは、今や世界的、喫緊の課題で他人事や日本だけの問題ではないことに「気づくことが必要」

期待する効果

市民が、購入・運搬・消費・処分の各段階のCO2排出による地球温暖化の影響を知り、一人一人がすべきことがわかる